

fono mc

はじめに

Fono MC は、優れたパフォーマンスはもちろん、使いやすくそして何よりも音楽を忠実に再現するために、設計されています。

入力段は、MC カートリッジの性能を最大限引き出すために、入力段のフロアーノイズの低減化とリニアリティーが自が図られており、さらにディスクリット設計となっているほか、リニアリティーと低ノイズに優れた LSK389 FET を採用しています。

LSK389 は、入力抵抗がハイとなっている FET のため、増幅段は抵抗の影響はマイナスとなっており、カートリッジへの影響はありません。

A Muse オペアンプは、RIAA イコライジング用アンプ内で使われています。ポリプロピレン樹脂製コンデンサーは回路上や RIAA イコライジングボード用に採用されています。

バックパネルに置かれたスロットにより、細部に渡って設定することが可能です。抵抗値の負荷の設定のため、#1-#2 を、コンデンサーの設定のために #3 をゲイン設定のために #4 の各スロットを使って細やかな設定が可能です。

スロットは、更に、L/R 独立で設定することが出来ます。

結果、FONO MC に出力の非常に低い MC カートリッジを組み合わせることも可能です。

Fono MC の美しいデザインは、その高音質電解コンデンサー同様重要であり TIPSU や Fono MM 同様アルミニウムシャーシを採用することにより一層際立っています。

Fono MM は Fono MC の兄弟モデルで、筐体や設計は共通となっています。新製品 Fono MC の基板設計はインテグレートッドアンプ: Aria のフォノアンプを設計した際に開発されたノウハウから生まれたものです。

Fono MC の昇圧段は、MC カートリッジからの微小な信号を 200mV ほどのラインの標準出力まで引き上げる設計となっています。

電源 ON/OFF

Fono MC は、フロントパネルにある ON/OFF のスイッチで電源 ON/OFF をします。電源が入ると Rega のロゴが赤く光ります。

注意

Fono MC に電源を入れた後、アンプの電源を入れることをお勧めします。これは、Fono MC のパワーを入れた際、ポップ音が生じ、スピーカーを傷める可能性があります。

接続方法

- 入力 :input

ターンテーブルからのケーブルとアースをバックパネルの端子に接続します。

- ターンテーブルのアース

アースを別に取り必要がある場合には、バックパネルにあるアース端子に接続下さい。

- 出力 :output

ラインケーブルをアンプの入力端子に接続します。

ご注意

Phono 入力が搭載されたアンプの場合は、Fono MC は、ライン入力に接続をお願いします。

Phono に接続しないようにご注意ください。

抵抗負荷の設定

1 and 2 off = 400Ω

1 on = 100Ω

2 on = 150Ω

1 and 2 on = 70Ω

コンデンサー値の設定

3 off = 1000pF

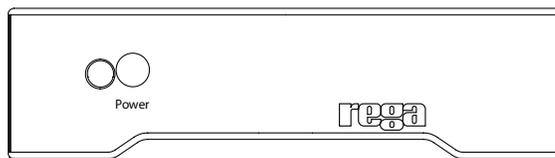
3 on = 4300pF

ゲインの設定

4 off = 63.5dB

4 on = 69.5dB

front panel controls



rear panel connections

